豊岡の近代化遺産「復興建築群」

概ね幕末から第２次世界大戦終了後までの間に西欧の技術などを導入して建設された、近代化の歩みを現代に伝える貴重な建造物等を『近代化遺産』といいます。

１９２５年（大正１４年）５月２３日に発生した北但大震災により、豊岡の市街地は、その大半が焼失するなど、大きな被害を受けました。町の復興にあたって当時の豊岡町は、先進都市に習って、新たな市街地は最新の文化様式を採り入れて建設するよう望みました。それに加えて兵庫県は、火災の延焼をくい止める防火に重点を置き、「防火建築補助規定」を定めて、一坪あたり５０円という補助金を出すこととしました。この額は、一般的な木造建築物が建てられる金額で、これにより、多くの罹災者が補助金を利用して耐火鉄筋構造の店舗を建築し、旧豊岡町役場や銀行の建物と並んで現在の街並みを形成しました。

豊岡市内には大開通り（駅通り）や生田通り、宵田通りなどに多くの復興建築物があります。それぞれの建物の規模は比較的小さいですが、一定の期間に建てられた建築物が多く残っている地域は全国的にも限られており、とても珍しい地域の一つだということが出来ます。

豊岡の復興建築の魅力はそれだけではありません。現存する建物をよくみて見ると、壁面にさまざまなレリーフがあったり、王冠のような造形があったり、窓枠のデザインが凝っていたりと、とても豊かな表情を持っていることに驚かされます。材料であるモルタルの造形上の可能性を最大限に活かして、当時の左官工達が腕を競い合ったのではないかと想像できます。

ー 近代化遺産とは ー

平成８年度の文化財保護法の改定により、従来の文化財の概念が広げられ、文化財登録保護制度が誕生しました。概ね幕末から第２次世界大戦までの間に西欧の技術などを導入して建設された近代化の歩みを現代に伝える貴重な建築物等、建物や工作物などの『近代化遺産』もその対象になりました。

豊岡市には達徳会館をはじめとし市役所、また大開通りや生田通りなどにも多くの近代化の建築があり、震災後85年以上経った現在でも本来の役割を果たしているものもあります。

＜駅通り（大開通り）＞

モリヤマ・エトワス

平入２階建ての在来工法による商店建築と、ＲＣ造風のファサードを持つ対照的な商店建築。

豊岡稽古堂（旧豊岡市役所）

中央に車寄せと塔屋を立ち上げ、縦方向を強調した建物。左右に大きなアーチの窓を連ねて軒先に持ち送り風の装飾を付け、中心性を強調した。昭和２年建設。昭和２７年に３階部分を増築。新庁舎の建設に際して、道路側に約２５メートル曳家され、３階部分は改築された。

由利邸

窓周りに柱型を付ける造形手法は近在の商店建築と共通。元は陸屋根だったと考えられるが、寄棟屋根を追加している。ＲＣ造。

旧但馬銀行豊岡東支店

ＲＣ造の銀行建築。上階の外壁には変更が加えられているが、１階の出入り口の石組みなどが立派。

リモージュ・ストーク

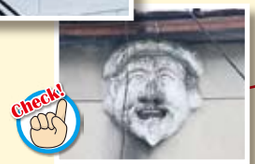
３戸１棟のＲＣ造下駄履き住宅。表現主義的なモチーフが見られる中央部と、ロンバルディアアーチやベランダ風手すりなど古典的な意匠も見られる左右翼部のたたずまいがユニーク。

十松屋・カワミ

２戸１棟の形で建設されたものと見られる。軒周りに持ち送り様の装飾が付く。ＲＣ造下駄履き住宅。

つるや

鉄筋コンクリート造３階建の商店建築。ファサードにルスチカ風の左官仕上げを施すなど、古典的な味わいのある建物。“ＳＫ”のレリーフの意味は？

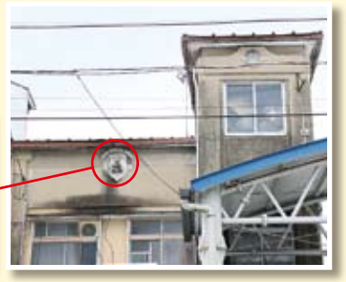


丸岡ふとん店・ピアチェーレ

２戸１棟形式の協調再建下駄履き住宅。３階部分は後年の増築と見られる。

京田邸

鉄筋コンクリート造２階建の商店建築。コーナーに塔屋を立ち上げる。以前は家具屋だったというが、分銅やえびすさんのレリーフは何を表すのか？



旧豊岡市役所南庁舎別館（旧兵庫県農工銀行）

昭和９年竣工のルネッサンススタイルの銀行建築で、派手さはないものの、角付けの柱を正面に連ねるなど堅実な構成を見せる様式建築。堅牢な面格子や網入りガラスは当時の面影を残す。建物内部の連続する３つのアーチは、高い天井と相俟って豪壮なイメージを与えたに違いない。平成26年春、お菓子をテーマにしたにぎわいの施設に生まれかわる。

由利芳商店

塔屋を中央に立ち上げ、左右対称を強調しつつ、デコボコで太いストライプを反復させるという表現派的な意匠が見られる。

つぼハ・ＢＯＢ・谷山人形店

５戸１棟の共同建築とみられるＲＣ造下駄履き住宅。左翼部の簡素なファサードに対して、中央部のパラペットの唐破風風のカーブや照明飾りなどの造形がユニーク。

鈴木自転車店

２階中央部から立ち上げられた王冠風のパラペット（壁）が斬新。所有者の姓をモチーフにしたのであろう鈴と、唐草文様のレリーフなど、表現主義的な装飾も多彩。